

2014.2.23 「新しい天と新しい地」 ヨハネの黙示録21:1~4

ヨハネの黙示録は新約聖書の中で最も難解な書物です。読んでもなかなか理解しにくいのです。黙示とはどういうことでしょうか。それまでおおいにかくされていたものを、そのおおいを取り除いて明らかにするという意味があります。ヨハネ黙示録では歴史の中にかくされている神の御計画と終末における審判と救いについての黙示となっています。

聖書には「ヨハネ」という名の人が幾人か出てきますが、黙示録のヨハネは教会の指導者で伝道熱心な人であったようです。そのためローマ帝国の迫害を受けて遂に捕らえられてパトモスという島に島流しされヨハネはそこで神の声を聞いたとあります。時代は紀元95年頃のようにです。

その頃のローマ帝国は皇帝礼拝を強制して教会やクリスチャンに対する迫害が激しく信徒たちは信教の自由も奪われ、もう神などいないと失望におこまれる人々も少なくありませんでした。そんな時、神はどのような境遇の中にあっても希望を見失うことのないようにヨハネを用いて民に約束された時の神の国の到来を力強く語られたのです。

私は新しい天と新しい地を見た。そこには死もなく罪もなく主の栄光がすべてを支配することになる・・・見よ、神の幕屋が人間の間にあつて神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいてその神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる・・・。

私たち一人ひとりの涙をことごとくぬぐい取ってくださる程に私たちが愛して下さっていることは誠に有難き幸せであります。(城間)